

# 第9回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録（ダイジェスト版）

令和4年2月25日（金）午後7時から、西脇市役所の大会議室において、「第9回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議」を開催しました。

会議では、第8回検討会議で行いました「これまでの協議を踏まえた適正規模・配置（案）」をテーマとした意見整理や協議、市長部局からの追加の説明、今後の答申に向けた流れなどについて、意見交換を行いました。



## 市長部局からまちづくりに関すること

- 1
- ～事務局からの意見～
- まちづくりと学校の関係について  
子どもに関係する活動について、地域と学校が連携・協力することでより効果的。どのような適正配置の形になっても、地域に子どもがいる限り、学校との連携・協力が必要になる。
  - 立地適正化が目指す都市像について  
日常生活に必要な施設を都市拠点へ集約することで維持し、交通ネットワークを形成することで次世代につながる都市を目指す。  
立地適正化計画では、重春小学校・西脇南中学校・茜が丘複合施設周辺が文教地区となり、維持充実を図るとしている。  
地域の拠点と中心拠点を結ぶような形でまちづくりを目指すイメージ

## 答申に向けた今後のスケジュール等について

- 2
- ～委員からの意見～
- 答申には、法的拘束力はないが、市には答申を尊重する義務が発生する。
- ～会長からの意見～
- 答申について、全員一致した意見にする必要はなく、付帯意見を答申に盛り込むことも可能である。
- ～事務局からの意見～
- あと2回から3回答申について検討会議で議論を行い、7月に市長に提出する予定

## ◇ 事務局がとりまとめて提案する「これまでの協議を踏まえた適正規模・適正配置（案）」についての意見概要



小学校・中学校は義務教育課程なので、同じような人数で同じような教育を受けられることを基本として考えないといけない。

15年間の適正化を段階的に考えるのであれば、10年目を節目として再度検討してもよいのではないかと。西脇市の特色として、小規模特認校を残す選択肢も有るのではないかと。





小さい規模の学校に世界の流れは傾いている。紋切り型の学校にするのではなく、人数以外にも目を向けて、西脇の特色を活かす学校を目指すべきではないか。

世界的には小規模の教育が進められているかもしれないが、日本で行うには財政的に厳しいと感じる。近隣市町は、教育に予算を割いて特色を出している。西脇市も西脇ならではの魅力や特色を打ち出すべきではないか。



子ども同士のいじめの問題や先生との人間関係の問題を解消するためにも、複数学級の維持に努めるべきだと考える。

複数学級があればクラス間のパワーバランスを調整することができ、競争を促して教育効果が期待できるしクラス替えの楽しみもある。また、人間関係や教師との問題があった際の逃げ道にもなる。複数学級が望ましいと思う。



小学校の複式学級は回避すべき。規模問わず学校の先生が努力していることは理解しているが、小規模の良さだけに目を向けるのではなく、西脇市の子ども達の将来を考えたときに果たして現状のままでいいのかという視点で検討を行うべきだと考える。

規模の適正化を考えたとき、教育や部活動の問題を考えると、小学校より中学校の問題が大きいと思う。中学校2拠点、小学校4拠点案を支持したい。



基本的に、中学校2拠点案を支持しており2拠点に機能を集約すべきと感じているが、他の委員の話を聞いて小学校は単純な統合ではいけないと思った。

3拠点案のままだと、15年後の複数学級の維持で懸念が残る結果となる。仮に3拠点案を採用しても実際の再編までは数年かかり、再編後すぐに再検討しなければいけなくなってしまう。そういった点から、人数で考えるのであれば2拠点案を中心に検討しなければならないと思う。



中学校2拠点で小学校は中学校に依拠してある程度の規模にすることが望ましいが、2拠点化が突っ込んだ選択になるのであれば、3拠点から段階的な移行も選択肢として有り得る。  
また、子どもの通学時の危険性や熱中症予防という点から考えると、遠いところから少人数で登下校するのではなく、バス通学の方が安心できる。

…その他、貴重な意見がたくさん出されました。

西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議事務局  
(西脇市教育委員会 教育創造部 学校適正推進課)

西脇市下戸田128-1

☎0795-22-3111(代)

